

第39回 真室川町防災訓練開催

主会場：及位地区



●午前6時、サイレンが全町に鳴り響き、防災訓練が開始されました。消防団員約520名が防災センター、真室川あさひ小、真室川北部小に集合し、火災発生に備え、人員・機械器具の点検を行いました。

●午前8時、ヘルスケアセンターまわろ川では入院患者、施設入居者の避難誘導訓練。

●午前8時45分、特別養護老人ホーム福寿荘で、施設入居者の避難誘導訓練。施設厨房からの出火による火災を想定した消防団による消火防犯訓練や消防団員指導による施設職員、地区住民による初期消火訓練が行われました。

●午前9時40分、訓練場所を及位地区へ移し、各地区自主防災組織を中心とした避難誘導訓練の他7つの訓練を行いました。



初期消火訓練(福寿荘)



避難誘導訓練(ヘルスケアセンターまわろ川)

【初期消火訓練】消防団指導により地区住民の初期消火訓練が家庭用消火器を利用し本番さながらに行われました。

【水防訓練】集中豪雨により流水が激しく、人家等への浸水のせき止めを想定し、消防団による「積み土のう工法」での訓練が行われました。

【土砂災害対応訓練】豪雨により土砂が流出し、町道が塞がれたことを想定し、タイヤドローザ等による土砂除去、チェーンソーを利用し倒木を除去する訓練が行われました。

【火災防犯訓練】地震による新及位地区での大規模火災発生を想定し、消防団各6班が出動し、火災防犯訓練が行われました。

8月31日(日)に第39回目の町防災訓練が開催されました。これは、昭和50年8月6日に発生した未曾有の大被害を教訓に毎年開催されており、今回は及位地区(農村環境改善センター)を主会場に実施されました。今年度の災害想定は、午前6時56分新庄盆地を震源とする震度6弱の大規模な地震が発生し、火災や局地的集中豪雨による人家等への浸水、土砂流出の緊急対応を迫られる想定で訓練が行われました。

【避難所設営訓練】

農村環境改善センターを避難所として開設したものの、避難者が増えたことを想定し、屋外にエアテントによる避難者を受け入れる訓練が行われました。

【通報・救急訓練】

最上広域消防本部の指導のもとダミー人形を使った心肺蘇生やAEDを使用した体験訓練が行われました。

【食糧供給訓練】

地域住民の協力による、おにぎり等の炊き出し訓練が行われました。

訓練では、災害発生を想定し、消防団員、地域住民が本番さながらに訓練を行う姿、又、指導者の説明に熱心に耳を傾ける姿が見られました。日頃から防災意識を高め、いつ発生するかわからない災害に備えましょう。

防災訓練で主会場となりました及位地区の皆さまを始め、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。



通報・救急訓練



火災防犯訓練



水防訓練(朴木沢地区)

災害に備え非常用持出品を準備していますか？

日頃から、災害に直面した時のため、備えを準備することが、災害の軽減につながります。実際、災害にどのくらい備えているのか非常用持出品チェックリストで点検してみましょう。

●貴重品類

現金、印かん、預貯金通帳・健康保険証・住民票・免許証のコピーなど。



●避難用具

懐中電灯、携帯ラジオ、予備の乾電池、ヘルメット・防火ずきんなど。懐中電灯はできれば一人に一つ用意。



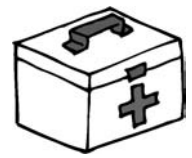
●生活用具

厚手の手袋、毛布、缶切り、ライター・マッチ、ナイフ、携帯用トイレなど。避難所生活に最低限必要なものです。赤ちゃんやお年寄り、障がい者がいる場合など考慮して備えましょう。



●救急用具

救急箱、処方箋の控え、胃腸薬・便秘薬、持病の薬、生理用品など。救急箱には、ばんそうこうや消毒液などを備えましょう。



●衣類品

下着・靴下、長袖、長ズボン、防寒用ジャケット・雨具など。衣類は動きやすいものを選びましょう。セーターなどの防寒具も寒い季節に役立ちます。



●非常食品

乾パン、缶詰、栄養補助食品、アメ、チョコレート、飲料水など。最低3日分は用意しましょう。



●その他

予備の眼鏡、コンタクトレンズ、携帯用カイロ、緊急連絡先ノートなど。



※避難するときにまず持ち出すべきものです。非常用持出袋に入れ、持ち出しやすい場所においておきましょう。